



もうすぐ梅雨も明け、夏本番がやってきます。子どもたちは、プールや水遊び・泥んこ遊び、室内では、夏祭りごっこや、お店屋さんごっこをして遊び、楽しそうな声が聞こえてきます。夏の疲れがたまると、夏風邪や熱中症、夏バテの原因になります。3食しっかりと食べ、十分な睡眠をとり、疲れを次の日に残さないようにしましょう。今月も、猛暑日が続きますので、夏の病気には十分に注意しましょう。

夏にかかりやすい病気

いんとうけつまくねつ

咽頭結膜熱（プール熱）



（症状）

アデノウイルスの感染により、3～5日ほどの高熱、扁桃腺炎、結膜炎の症状がでます。感染力が強く大人も感染します。

（登園基準）

結膜炎の充血、熱などの主な症状が治まったあと、2日が経過したら。

ヘルパンギーナ



（症状）

突然の高熱と喉の痛み、口内炎が特徴です。多くの場合2～4日で解熱して治癒していきます。

（登園基準）

24時間以内に熱がなく、普段の食事がとれるようになったら。

手足口病



（症状）

手のひら、足の裏、お尻、口の中に水疱ができます。（水疱は全身にできることも）熱が出ることもあります。口の中に水疱ができると、痛みで飲食できないことがあります。

（登園基準）

24時間以内に熱がなく、普段の食事がとれるようになったら。

水いぼ

（症状）

1～5mm程度の大きさのいぼ。伝染性軟属腫ウイルスによって起こる感染症です。

いぼがつぶれて中の液が別の部位に付いたり、皮膚と皮膚の接触（タオルの共有、脱いだ服とおしの接触など）で感染します。

（登園基準）

特になし。

＊水いぼは大きくなるとつぶれて、とびひの原因になります。
＊水いぼがつぶれてジュクジュクの時はプール、泥んこ、水遊びはできません。



爪を切って清潔に



爪が伸びていると、爪と爪の間にばい菌が繁殖しやすくなります。虫刺されや湿疹などで傷ついた肌を汚れた爪でひかかると、傷口に細菌が感染して、とびひになることがあります。また、乳幼児のやわらかい肌を傷つける危険性もありますので、爪は、こまめに切るようにしましょう。

《麻疹・風疹（MR）2回目の

予防接種はもうお済ですか？》

年長児（にじ組）は麻疹・風疹の第2回目の予防接種を行う年齢です。期間はR8年4月1日からR9年3月31日までです。期間が過ぎてから接種すると料金がかかります。寒い時期になると風邪やインフルエンザの流行などがありますので、体調が良い時に早めの接種をお願いします。9月頃に麻疹・風疹の予防接種の有無について確認させていただきますので、よろしくお願いいたします。